

「池モンをさがせ! (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

5、「ボヨヨン池モン」発見!

「先生!すごい、見て!ボヨヨン池モンがいます!」
「何だそれは?見せて!」

それは「ツリガネムシ」という動物プランクトンでした。ツリガネムシ。単細胞の動物性プランクトンです。水中のゴミ(藻類やその枯死体、ミジンコの抜け殻など)に長い柄で着生しています(ウミユリのような形状)。先端に生物本体があって、水流(鏡下では渦のように見えます)を作って、浮遊物を捕獲しています。これが何かの刺激(例えば震動)を受けると、長い柄の部分が瞬間的にバネのように収縮します。複数個体存在する場合は、一斉に同期収縮します。その一瞬が面白い観察対象です。しばらくすると、またもとの長さに戻ります。

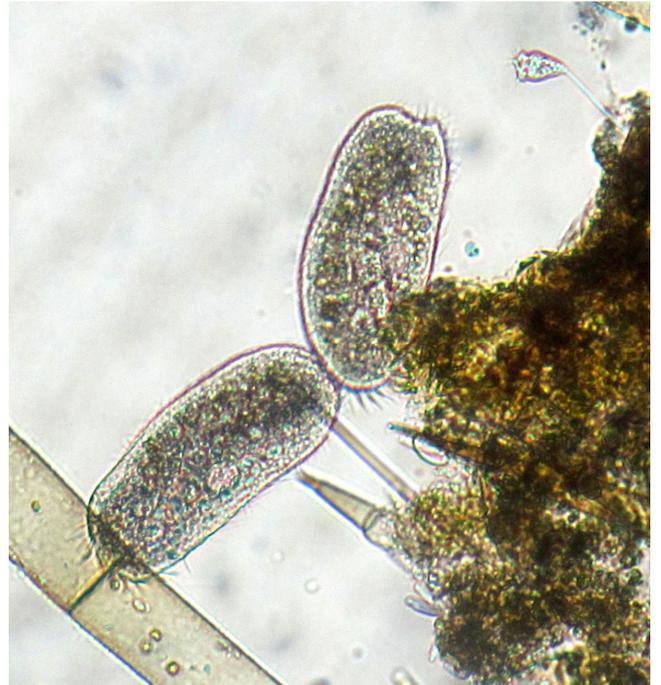


子どもはその生態から「ボヨヨン池モン」と名付けたのでしょ。これを期に、見知らぬプランクトンに、自分で「勝手に和名」をつけるのが流行しました。特徴をよく表していて、面白いと思いました。

- ・DNA池モン (アオミドロ)
- ・変形スイマー (ゾウリムシ)
- ・顔なし (ワムシ) =意味不明
- ・リトル・ショップ・オブ・ホラーズ (クチビルケイソウ) =コメディ・ホラー映画の名称

6、ゾウリムシの分裂の一瞬

ライオン池の「池モン」の中でも、最も良く見られるのが、ゾウリムシです。繊毛を使って、プレパラートのガラスの隙間を、器用に泳ぎ回っています。その中に、時々、ヒョウタン型に細長いゾウリムシがいます。よく見ると、単細胞生物のはずのゾウリムシに「核」が2つあるのがわかります。これは分裂直前のゾウリムシです。こうなると、ほんの10分ほどの間に、ひょうたん型のくびれが深くなり、ついに、1匹だったゾウリムシが2匹に分裂し、別々に泳ぎ始めます。



「ゾウリムシが分裂した一瞬」動き回りながら分裂するので、シャッターチャンスが大変。分裂後は、別々に泳ぎ出しました。

分裂中でもゾウリムシは動き回ります。従って、顕微鏡下で追いかけるのはなかなか大変です。しかし、まさに分裂の瞬間をみた時の感動は、他では味わえないものでしょう。わずが一滴の水の中の生命---それが感動と学びを提供してくれる一瞬なのです。

【子どもの記録から】

- ・「ゾウリムシははじめて見ました。しかも分れつするなんて!すごいしゅん間を見てしまった!」
- ・「池モンは卵で増えると思っていました。1匹が2匹になるなんてすごい。」
- ・「小さな生き物が分れつでふえるのは知っていたけど、けん微鏡で見たのははじめてで、感動しました。」